

R3「学力向上対策3つの提言」推進拠点校の取組 及び 成果と課題 ①

(豊後大野市立三重中学校)

重点的取組 【提言2】

学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

<学力向上に向けて重点的取組に上げた理由> 昨年度の反省に、教職員・生徒のベクトルがそろえられた組織的な授業改善が必要であり、それが「深い学び」につながるという意見があった。本校の生徒の実態として、目的を持って学習に取り組んでいる生徒が少ない、学力が定着していない生徒が多い、などがあげられる。これらを解決するためには、学ぶ喜びを感じることができる授業、生徒が自己存在感を感じ、充実感や一体感を味わうことができる授業など「学ぶ喜びや達成感を実感させる教科指導の工夫」を実践する必要があると考えた。そこで本年度は、教科部会を充実させることで、個々の教科指導力を向上させていきたいと考え、重点的取組とした。

取組の具体

- (1)「タテ持ち」の取組について
 - 国語(2・3年)・社会(2・3年)・数学(1～3年)・理科(2・3年)・音楽(1～3年)・美術(1～3年)・保体(1～3年)・技家(1～3年)・英語(1・3年) *1年生の国・理については、タテ持ちではないが、学年部の2人で担当。
- (2)「教科部会」の取組について
 - *校内研究に位置づけた教科部会(学習プロジェクト)
 - ①日課表に位置付け、月に3回以上の実施を目標とした。
 - ②各教科に共通した授業改善の推進
 - ・「振り返りシート」を単元を通して活用すること。
 - ・努力を要する生徒への手立てを講じた授業を単元を通して行う。
 - ・目的を持ったペア・グループ学習を単元を通して行う。
 - ③互見授業研究, 互見授業参観の実施
 - ・指導案審議
 - ・教科部会での研究協議
- (3)その他
 - ・中学校授業力向上アドバイザーとの連携
 - ・質問教室の実施
 - ・テスト対策プリント

教科部会の実施時間

学期	国語	社会	数学	理科	英語	保体
①	3	3	8	7	7	7
②	7	6	9	6	4	5



←グループ学習の様子

成果と課題

- (1)「タテ持ち」の取組について
 - タテ持ちをすることで、ワークシートを共有できたり、教材の準備を協力して行うことができた。
 - 授業やテストについて、アドバイスをもらうことができた。
 - ▲打ち合わせ時間の確保が難しい。
 - ▲行事による授業変更があっても、取り戻すことができない。
 - ▲テスト前の打ち合わせが不十分で、結果に差があった教科もあった。

少数意見ですが・・・
▲教科の先生を統一していただきたい。先生によって教え方が違うことで、他のクラスの友だちと話をするときに混乱するようです。



質問教室(担当教員全員で対応)



教科部会の様子

- (2)「教科部会」の取組について
 - 話し合う内容を明確にし、短時間で終わるように工夫した。
 - ▲技能教科(音・美・技家)の教科部会の持ち方を検討中である。
- (3)その他
 - テスト対策プリントから、10点程度出題することとしたので、努力を要する生徒がテスト勉強に取り組む姿があった。

2学期定期テストでの低学力層の割合

%	平均	国	社	数	理	英
中間	16	11	13	29	13	16
期末	14.6	14	18	11	15	15

その他の取組 【提言1】

学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底



市教振理科部会での様子

取組の具体

- 授業改善について
 - 三重中スタンダードの徹底
 - 単元振り返りシートの活用
- 中学校習熟度別指導推進教員（数学）の活用
- 英語教育推進教員の活用
- その他
 - 互見授業研究（指導主事招聘），互見授業参観（教科部会）の実施
 - 研究協議への教務主任，研究担当の参加
 - 互見授業参観チーム
 - 市教科部会との連携



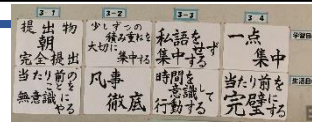
英語：2人態勢での3年生の授業

成果と課題

- 3・2・1GO札が徹底できるようになった。着席後の2分間の活用方法を検討していく必要がある。
- 単元振り返りシートを活用することで「何を学ぶのか」「何が身についたのか」を生徒と共有できている。
- 英語の2人態勢の授業（3年）では，生徒に目がいきとどき，苦手な子にも指導ができる。分担して，教材研究に時間をかけることができる。
- 習熟指導では，生徒の習熟程度にあわせて，練習問題を変えたりなど，レベルにあわせて授業ができる。
- ▲タテ持ちのため，時間があわず，打ち合わせの時間が不足している。
- ▲指導主事招聘の授業で教科全員が参加できないことがあった。互見授業参観チームも作ったが実働できていない。教科主任のリーダーシップと調整力が必要である。
- ▲本年度は，2つの研究大会があり，全体での授業研修ができなかったため，三重中が目指す授業が統一できなかった。

その他の取組 【提言3】

「生徒と共に創る授業」の推進



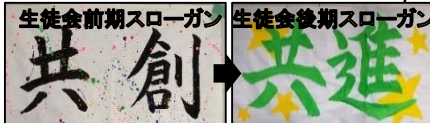
クラスでの振り返り



3年学年集会

取組の具体

- 生徒による授業アンケート
- 学級で生活目標・学習目標の設定・振り返り・改善
- その他
 - 生活3則，学習3則の見直し
 - 生徒会活動の見える化



前期はクラスマッチ形式。後期は基準を達成したクラスには，すべて表彰

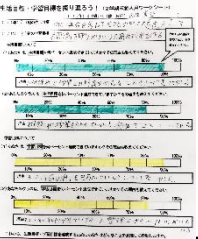
成果と課題

- 「学びに向かう学校」づくり生徒推進フォーラムに参加したことを通して，生徒会役員が学校目標を意識するようになった。
- 全クラスで生活目標・学習目標の振り返りを行い，クラスの現状を把握できた。
- ▲目標の振り返りをする際，基準がないため，振り返りの個人差が大きかった。
 - 2学期は事前に担任と学級委員長が打ち合わせをし，達成できたかどうかの判断基準を設定した。
- 生徒が自分たちで考え，行動する姿が見られるようになった。生徒会活動もただ踏襲するのではなく，現状にあわせて，工夫されている。

	1学期	2学期
1年	81.0	91.9
2年	60.6	67.9
3年	72.7	92.4



自分の学級は，助け合い，自主的に取り組む集団となっている(%)



個人用の振り返り